

1. 単元名 Unit 5 “We live together.” (光村書籍)

2. 単元の目標

- 動物の名前やすみかななどを表す語彙や表現を習得し、地球上の絶滅危惧種の動物が向かい合っている問題について英語の映像を通して学び、屋久島の動物に起きている問題を理解する。(知識及び技能)
- 絶滅危惧種の動物の気持ちを想像して考え、屋久島にくる外国人観光客にポスターで伝えるため、既習の表現や新しい表現を使って、相手に伝わりやすい文章を作ることができる。(思考力・判断力・表現力)
- 屋久島の絶滅危惧種である海ガメの生態や気持ちを伝えるという目的意識を持ち、意欲的に調べ、英語の文章を作って発表することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では絶滅危惧種の動物の住む場所、食べるものなどを考えながら、地球に住む生き物のつながりについて英語の表現を使って考えていく。今までに理科・社会や総合で、自然との関わりや屋久島の動物について学んできているため、児童にとっては身近な教材といえる。使用する語句は、生き物の名前や自然を表す単語、文章はI live in～. I eat～. I don't like～. など簡単なものである。そこで、既習したI can～. I like～. I want～. など気持ちを表す表現を使い、その動物になりきって、その動物の気持ちを考え、英語の文章を作り、ポスターにすることを単元ゴールに設定する。

さらに屋久島 ESD の視点から、屋久島の絶滅危惧種の動物について話し合い、英語で表現することで、来島する外国人観光客にポスターを見てもらうというゴールを設定し、観光客に屋久島の動物の気持ちを感じてもらえるように工夫するなど、相手意識を持って活動できる良さがある。

(2) 児童観

小規模校では、5・6年生が同じ学級で一緒に外国語の授業を受けている。今回は6年生の教科書を5年生も学ぶため、語彙や文章が増えて、むずかしい時があるため、6年生と混ぜたグループにして制作活動を行う。動物のテーマでは参加意欲が強く見られ、動物が好きな児童が多く、積極的に「英語で何というの？」と質問する児童が多く見受けられる。

屋久島に訪れる絶滅危惧種の海ガメについて、その生態や生育環境、数が減少した理由などについて、毎年、専門家を呼び、卵を保護して学校でふ化させるなど、詳しく学んできた背景があるため、児童は海ガメのことに詳しい。

また屋久島には、様々な国籍の外国人観光客が訪れるため、児童は直接関わることは少ないものの、自らが考えた英語で発信するという形で、児童の外国語に対する意欲の向上に繋がると期待できることから、この課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

永田小の児童はすでに毎年のように屋久島の海ガメ専門家を招き、詳しい話を聞いて、学校で保護した卵をふ化させて、海へ放流する活動を続けており、ボランティアの時間にビーチクリーンを行っている。そのためベースになる知識はあるが、海の大きな問題の一つが、分解に時間がかかるプラスチックゴミであるが、危機意識はなく、プラスチックは便利なものと認識している児童も多い。そこで、プラゴミを間違えて飲み込んでしまったり、体に刺さったり、からまったりしたことで、多くの動物が

苦しんでいることを画像で紹介する。野生動物が日々向き合っている人間社会の影響について考えるため、気持ちは暗くなるが、事実であり速急な対応が必要な世界的な課題であることから、深掘りする意義は大きい。美しい自然をなるべく汚さずに絶滅の危機にある動物を守るためにできることを、児童が動物の目線で考え伝えることで、来島者の自然保護への理解を深める役割になれると考える。またグループで意見交換して作った文章を、同じ単元を学んでいる隣の学校の5・6年生とお互いに見せ合うことで、お互いに良い刺激になると考える。

#### (4) ESD との関連

##### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

公平性・・・屋久島の未来を考え、自然環境を次の世代に残していくことが大切である。

相互性・・・屋久島の自然環境を守りながら、魅力を高めることが地域を守ることにつながり、さらには地球を守ることにつながることを理解している。

連携性・・・友だちや地域の方と協力して活動に取り組み、環境保全に役立つことができる。

多様性：動物の生育環境は多様で、それぞれに適した食料や気候があることを理解している。

有限性：人間が大量に食べたり、開発をして形を変えてしまったり、自然環境を汚せば、動物は住めなくなり、絶滅してしまう。

責任性：屋久島の豊かな自然を次世代に引き継ぐために活動する責任がある。

##### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

###### ① 批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)

自然の豊かな屋久島に住んで海ガメの生態や絶滅危惧種であることを学んでいるのに、プラスチックは便利で良い物という意識で大量に利用していて、ビーチクリーンに参加していても、日本も世界環境のために良いと思って活動をしていても、人を相手にするとき、正しく情報や想いを伝えられるか検討する。

###### ② 多面的・総合的に考える力 (システム・シンキング)

山、海、動物、住民、観光客など、様々な立場から、屋久島の豊かな自然とその恩恵を受けている暮らしについて、また今ある環境問題について考える。

###### ③ つながり尊重する態度

自然や人との繋がりを持ち、屋久島の海ガメの未来が明るくなるように活動する態度。

###### ④ 長期的思考力・未来を予想して行動する力

島の希少な自然環境と文化を守り繋いでいくために、50年、100年先のことを考えて、今、行動することが大切である。

###### ⑤ コミュニケーションを行う力

友だちや大人と交流して協力して意見をまとめ、外国人に英語で伝える力を身につける。

##### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

###### 〈世代間の公正を意識できる〉

自然保護と住みよい町の持続のために、先祖から受け継いだものを、自分たちが次の世代へ引き継ぎ、未来に起こりうる事を考えて、行動することが大切である。

〈自然環境・生態系保全の重視〉

固有種の動植物も多く、海も希な多様生がある地域に住んでいることを知り、その保全に取り組み続けることが大切である。

〈幸福感に敏感になる、幸福感を重視する〉

大きな環境問題に向き合ったときに、自分は無力に感じるが、言葉が話せない動物の代わりに言葉にして発信することで、島の未来のために役立っているという充実感を感じる。

・達成が期待される SDGs

- 4, 質の高い教育をみんなに
- 11, 住み続けられるまちづくりを
- 12, つくる責任、つかう責任 (分解の遅いプラスチック製品)
- 14, 海の豊かさを守ろう
- 15, 森の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 動物や自然の言い方、 Where do lions live? Lions live in ～. What do lions eat? Lions eat ～. の表現や答え方について理解している。 ② 動物や自然を表す単語や I live, I eat, I want, I like, I don't like, It's などを使って、動物の気持ちを伝える技能を身につけている。	地球に暮らす動物と人間の生活のつながりについて考えたことを伝えるために、そして屋久島の絶滅危惧種の動物の気持ちを伝えるために、簡単な単語や基本的な表現を用いて文章を作ったり話したりしている。	① 地球に暮らす生き物について伝えるために、簡単な単語や表現を用いて、文章を作ろうと努め、話そうとしている。 ② 積極的にクラスメートや先生と意見交換しながら、動物のためになるポスターを作るという目的意識を持って取り組んでいる。

5. 単元の指導計画 (全 8 時間)

主な学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
1～3 時間目 “We are all connected” (私たちはみんな繋がっている) の歌を聴き、ゴールの確認をしてから、動物を表す単語やどこに住んでいるのかという表現について学ぶ。 教科書に沿って、リスニングや映像から答えを導き出し、チャンツやクイズを通して新しい表現をくり返し練習し、覚える。	1～3 時間目 複数の動物の写真を見せて共通点である絶滅危惧種であることを導きだし、屋久島の海ガメの存在に気付かせる。 楽しく新しい表現を学べるように、クイズやゲームをして、楽しく覚えられるようにする。その際に、英語が苦手な児童が恥ずかしい思いをせずに、チャレンジできるようにする。	(ア)①・②

<p>4時間目 ALTの先生たちに母国で起きている環境問題、とくに動物に関わる変化について、教えてもらう。</p> <p>5・6時間目 屋久島の絶滅危惧種の動物について調べ、お友達と話し合い、動物の気持ちを考えて英語で伝える。</p> <p>7時間目 発表する部分を決め、タブレットを利用しロイロに英文を書いて共有する。英語をキーボードで打つのが得意な児童が英文を打ち込んでゆく。ポスターを作る。書き、イラストなど、得意分野で手分けして作業を進め、発表のための練習を行う。</p>	<p>4時間目 ALTが日本語ができない部分は、日本語訳を入れて、内容がきちんと子供に理解できるようにする。</p> <p>5・6時間目 興味が同じグループを作って、動物の気持ちになって英語の文章を作るため、簡単な英語表現が作れるように、いくつかの例を教える。どんな表現だと、動物の気持ちを伝えられるのか、動物になりきってみるように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や映像など参考資料の有効活用</li> </ul> <p>7時間目 外国人観光客に簡単な英語表現で伝えるために講師やALTに教えてもらいながら、表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋久島の魅力も伝わるか</li> <li>・シンプルな英語で分かりやすい説明</li> </ul> <p>色ペンなど使って、見やすさ、伝わりやすさを考えて作るように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く側・見る側の立場から考え直す。</li> <li>・正しく伝わるクリアな発音であるか</li> </ul>	<p>(ウ)②</p> <p>(イ)(ウ)</p> <p>(ア)(イ)(ウ)</p>
<p>8時間目 ポスターの制作が終わったら、別の学校の子供達とオンライン発表会を行い、ふりかえりを行う。</p> <p>休日を利用して、外国人観光客が立ち寄ることが多い施設で、ポスターを掲示、また観光客に直接読み伝えて、フィードバックをもらう。</p>	<p>8時間目 質問&amp;感想の例文(日本語)をいくつか用意しておく。自分たちが調べなかったことなど新たな発見があるため、質問をさせる。</p> <p>ロイロのアンケート機能を使って、子供達にふりかえりを兼ねたアンケートを提出してもらう。</p> <p>その後、外国人観光客が立ち寄る文化村センター内にポスターを掲示させてもらう。子ども達にも有志で休日に来てもらってポスターを読み伝え、その際に分からない部分を一緒に訳したり、調べたりして英会話の実践ができるようにする。</p>	<p>(ア)(イ)(ウ)</p>

## 6. 成果と課題

他者と協力して一つのものを作成したり、普段関わらない他校の子供たちと交流し、地球に起きていることを調べて発表し合えた。また地球の近い未来を予測し、自分事として考えて、何ができるか考える良い機会となったことは、成果と言える。また、英語で伝えると世界へ発信できると子供たちが気付いたことも大きな成果である。担任の先生と連携し話し合いをしながら進めたことで、他の教科でも展開が見られたことが良い驚きであった。時間が限られていたため、実際に子供達ができると思うことの実践ができなかったのが課題である。英語は得意不得意の差が大きくでやすいため、ポスター制作時に、英文作りを得意な子に任せてしまう傾向が見られたことから、同時に個別にできる活動も用意しておくことが大事だと分かった。



### 現在の学年終了時に目指す姿

自分たちの住む町に誇りと愛着をもち、自分たちが町づくりの主体であることに気付くとともに、多様な人々と協働して、自然環境と共生し続ける町づくりを考え、自ら行動を起こすことができる。

世界では自然破壊や密猟、温暖化など、こんなに動物が苦しんでいるなんて知らなかった。

産卵にくる海ガメが、どうすれば安心して過ごせるかな？

### 外国語科「みんな一緒に地球で暮らしている」 「動物を救おう」

○主に養いたい ESD の資質・能力

#### 批判的に考える力

人間中心な開発による環境問題で苦しむ動物について知り、自分たちは何ができるか考える。

#### 長期的思考力・未来を予想して行動する力

島の希有な自然環境と文化を守り繋いでいくために、50年、100年先のことを考えて、今、行動することが大切である。

#### コミュニケーションを行う力

友だちや大人と交流して協力して意見をまとめ、外国人に英語で伝える力を身につける。

○主に育てたい ESD の価値観

#### 世代間の公正

自然保護と住みよい町の持続のために、未来に起こりうる事を考えて、行動することが大切である。

#### 自然環境・生態系保全の重視

固有種の動植物も多く、海も希な多様生がある地域に住んでいることを知り、その保全に取り組み続けることが大切である。

こんなに自然があふれる所で暮らしているのは幸せなことなんだなあ。

私たち一人一人が、声をあげて活動したり、活動している人達を支援したりしよう。

### 外国語科「みんな一緒に地球で暮らしている」 「動物を救おう」

動物の名前、住みかや食べ物を表す英語を学び、野生動物の暮らしに思いを馳せ、環境問題に苦しむ動物について音声や動画のリスニングを通して学び、環境問題を表す英語も練習する。ESD アドバイザーや ALT の外国人の先生達から、各国の環境問題について教わり地球全体の問題があることを知る。その後、自分たちの地域に住む動物たちが直面している問題を調べ、お友達と話し合っって考えて自分たちができることを英語の文章にした。生物学者や山岳ガイドも多くいる土地柄、専門家から生き物や地質などの話を聞く機会があるが、人間の行いによる悪影響に焦点を当て、1人1人が日常の中でできることを考え、自分たちの美しい島のために活動したいという意欲をもたせる。

### 総合的な学習の時間「自分たちができることを発信しよう」「屋久島の未来を考える」

屋久島の暮らしの歴史を知り、自分たち1人1人が人や自然の関わりの中から課題を見つけ、他の人と協働する中で、今後のよりよい自己の生き方を考え、自ら創造的に課題を設定し解決してゆくことができるように、課題解決に取り組む力を育てたい。

#### <3学期へ繋がる>

道徳科「自然を守る」(教材名「地球があぶない」)、理科「地球に生きる」  
今までに学んだことを、さらに横断的な学びを通して深め、環境破壊のない暮らしや、自然と共生する生き方の実現に向けて、自分たち1人1人の課題として考え、できることを実践したり、伝えられるようになることが大切である。